

令和5年度学校評価報告書

北海道札幌西高等学校長 藤村 誠

次のとおり令和5年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

(1) 系統的なライフスキル教育の推進	(2) 生徒の多様な分り方を活かす授業づくり
(3) 個に応じた指導の充実	(4) 特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応
(5) 学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施	(6) 観点別学習状況の評価の充実
(7) P T Aや学校評議員など関係団体等との連携	

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

(1)系統的なライフスキル教育の推進	
ア 自己評価	・総合的な探究の時間の1単位増単分において、特別支援担当教諭により年間通じて「コミュニケーションに関する分野と学習能力に関する分野」を、各種トレーニングを取り入れながら今年度も実施することができた。 ・HR指導や個別面談等を通じて、生徒が社会的な自立に向けた基盤を整えられるよう、必要に応じて関係機関を紹介するなどの個に応じた指導を行うことができた。
イ 学校関係者評価	・引き続き、実践的なトレーニングが行われることが望ましいと考える。 ・「コミュニケーション・スキル」の育成を充実していくことが肝要だと思われる。
ウ 改善方策	・増単した総合的な探究の時間については、指導計画に基づく継続性の担保をしていく。 ・スクールカウンセラー、児童相談所、若者サポートステーションなどの関係機関との連携を一層充実させていく。
(2)生徒の多様な分り方を活かす授業づくり	
ア 自己評価	・特別活動等を通して、生徒同士の関係づくりを意識した指導を行うことができた。 ・「単元テスト」の日程調整については、教科担任が各教室に実施時期を掲示することにより、科目同士の日程が重複しないよう工夫することで、生徒が学びやすい環境を整えることができた。
イ 学校関係者評価	・個別性に応じた細やかな配慮がなされている。 ・生徒のできる、分かる喜びを実感できる授業づくりが大切であるので、引き続き取り組んでいただきたい。
ウ 改善方策	・生徒が安心して学ぶことができる環境は、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の基盤となることから、引き続き、特別活動等を通じた生徒同士の関係づくりを継続していく。 ・指導と評価の一体化を充実させるよう、学習評価に関する研修を充実させる。
(3)個に応じた指導の充実	
ア 自己評価	・生徒一人一人に合った指導を教材作成含め、各教科担任が工夫改善しながら行うことができた。 ・大学生ボランティアの活用については、当初予定していた学生の力量向上のための研修等が実施できなかったが、必要に応じて業務前後に打合せを設定することができた。 ・一部指導に乗ってこられない生徒に対する関係機関との連携による指導方法の研究については、実施はできなかったが、今後も継続研究する必要がある。
イ 学校関係者評価	・生徒の個性に応じた学習ニーズに対応した指導を推進していただきたい。 ・指導が大変かもしれないが、外部人材の活用は双方にとってよい影響をもたらすのではないと思われる。
ウ 改善方策	・生徒一人一人に合った指導を教材作成含め、各教科担任が工夫しながら進めるという方向性を継続するとともに、一部指導に乗ってこられない生徒に対して、外部との関係機関とも連携した適切な指導の充実を図る。 ・大学生ボランティアの有効的な活用について、学生ボランティアの意識向上を図ることができるよう、毎回短時間の打合せを行うとともに、事前指導も計画的に行っていく。
(4)特別な支援を要する生徒へのきめ細かな対応	
ア 自己評価	・対象となる生徒について、関係機関と連携するなどして支援策を検討の上、対応することができた。 ・HR担任だけで対応するのではなく、教科担任なども情報を共有するとともに、適宜保護者とも連絡を取りながら対応することができた。
イ 学校関係者評価	・職員同士の連携及び保護者との連携を密にしていきたい。
ウ 改善方策	・特別支援を要する生徒に対する「0時間目（始業前）」の活用が効果的であったことから、次年度も継続していく。また、学力向上のための0時間目の活用方法についても検討していく。

	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修を充実させるなどして特別支援教育に関する教職員の理解を深められるよう、特別支援学校や道立特別支援教育センター等、関係機関との連携の充実を図る。
(5)学習指導要領の趣旨を生かした教育課程の編成・実施	
ア 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度入学者からスタートしたいいわゆる新カリについては、局からの指導も踏まえて、見直しを図った。 ・生徒のコミュニケーション能力や社会性の向上に向け、卒業生講話や局のキャリアプランニング・スーパーバイザーによる進路講話等、関係機関と連携した取組を行うことができた。
イ 学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・優れた取組をしていると考えられる。 ・引き続き取組を継続していただきたい。
ウ 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・グラデュエーション・ポリシーを中核に、学校の教育活動が実施されるよう、観点別学習状況の評価やルーブリックの取組を充実・発展させる。 ・生徒の変容を通して教育課程の成果を捉え、必要な改善を図るなど、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。
(6)観点別学習状況評価の充実	
ア 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・年度当初に、教科ルーブリックや単元ルーブリック作成に向けた確認を行い、年間指導計画に盛り込むことができた。 ・石狩教育局と連携した研修会を実施することができなかった。
イ 学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、観点別学習状況の評価を充実させ、生徒の学習と教師の指導の改善に生かしていただきたい。 ・ルーブリックが、具体的な指導に活用できているかが重要かと思う。
ウ 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリックの活用方法などについて、教職員の共通理解を図るための校内研修を実施する。 ・観点別学習状況の評価に関する基本的な理解を深めるための校内研修を実施する。
(7)PTAや学校評議員など関係団体等との連携	
ア 自己評価	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA懇談会とスクール・カウンセラーによる保健講話を同日に実施したり、PTA協賛事業のアイヌ文化体験を開催したりするなど、保護者が感心を持てるような内容となるよう工夫することができた。 ・輔仁会定時部会と連携し、「西定先輩と語る会」を実施予定であったが、荒天による臨時休校により、中止となった。
イ 学校関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA懇談会、スクール・カウンセラーの講話については、今後ともPTA行事として行っていただきたい。 ・PTA協賛事業のアイヌ文化体験は、保護者と一緒に勉強させていただき、大変よかった。今後ともテーマを設定して実施していただきたい。 ・全日制の活動とも融合してできる部分があると、より関心が高まるのではないかな。
ウ 改善方策	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のPTA行事への参加率を高めるために、各種学校行事（含生徒会行事）にもPTA会長以外の役員へも案内するなどして、魅力あるPTA行事を模索していく。 ・輔仁会（同窓会）定時部会と連携して、「西定先輩と語る会」等の行事を継続していく。